

研究班番号【 56 】

幼少期の習い事がもたらす効果

保健班:尾崎 隼汰、若村 香明、服部 涼太

Abstract

Recently, many people have taken various lessons since they were young, so we thought the lessons are available for education. The purpose of this study is revealing the effect of them. The experiment shows that the grades of people who took less lessons were higher than that of people who took more them. Therefore, we concluded that not kinds of the lessons but a number of them has influences to scholarly ability.

要約

近年多くの人が幼少期のころから習い事を行っている。そこで私たちは習い事を教育に利用できるのではないかと考えた。本研究の目的は幼少期の習い事がもたらす効果を明らかにすることだ。実験によって習い事の数が少ないほうが学力が高いことがわかった。したがって種類は関係なく習っていた数が学力に影響があるということが結論付けられた。

1. はじめに

現代では、多様な習い事が存在し、多くの人間は幼少期にいずれかの習い事をしてきた経験があるだろう。そして私たちはこの習い事がその後の人生に多くの影響をあたえているのではないかと考えた。そこで私たちは幼少期の習い事と今の成績などにどのような関係があるのかを研究した。またこの実験を通して将来に向けて適切な習い事選びができるとよいと考えた。

2. 研究手法

実験1、実験2共にアンケートを実施した。

《実験1》

高津高校の一部の生徒に以下の内容についてアンケートを実施した。

- ①今の得意科目について。
- ②今まで1年以上続けていた習い事(部活)について。
- ③アンケート実施時の直前に実施された定期考査の成績。

《実験2》

他校に所属している生徒に以下の内容についてアンケートを実施した。

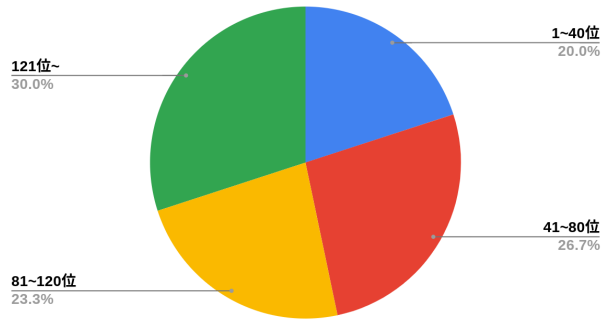
- ①今の得意科目について。
- ②今まで1年以上続けていた習い事(部活)について。
- ③模試の成績について(受験人数が最も多いと考えられる進研模試の結果を使用)。

3. 結果

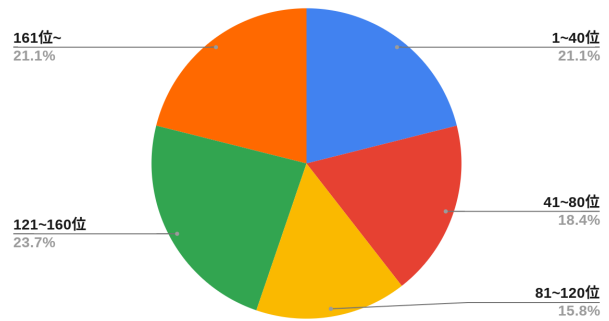
《実験1》

アンケートの回答者の中から、小学校入学前に公文などの学習に関する習い事を行っていた者のみで成績の分布を円グラフに表した。順位に偏りがないことが分かる。

文系

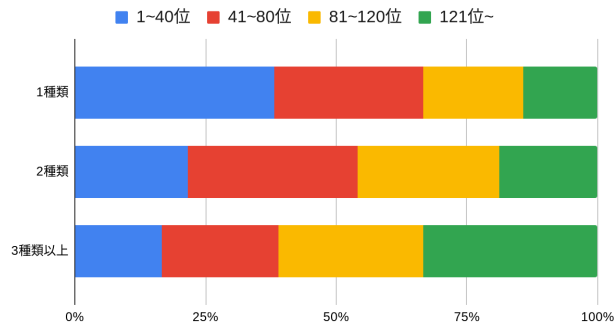


理系

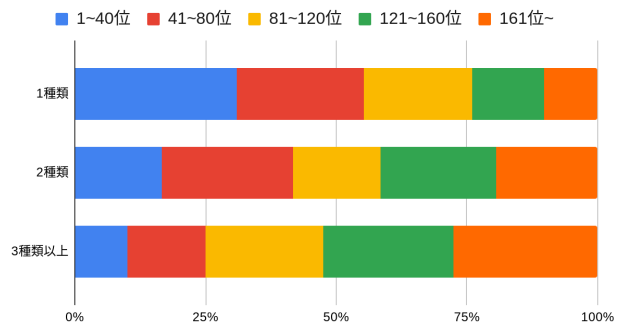


小学校在籍時に行っていた習い事の数で回答者を分け、順位の分布を表した。習い事の数が少ない者に高順位の者が多いことが分かる。

文系



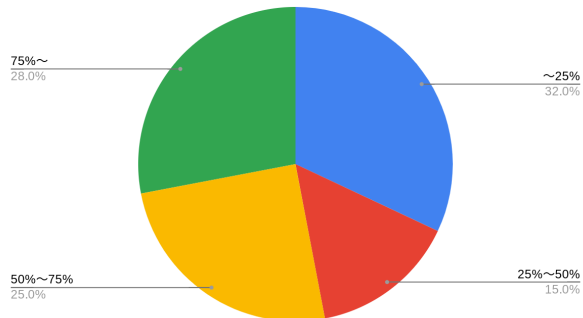
理系



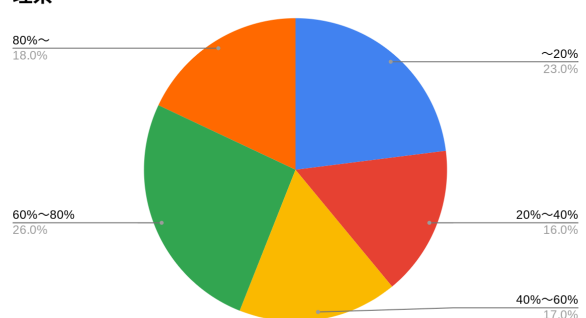
《実験2》

実験1と同様に小学校入学前に公文などの学習に関する習い事を行っていた者のみで成績の分布を円グラフに表した。同様に順位に偏りが少ないことが分かる。

文系

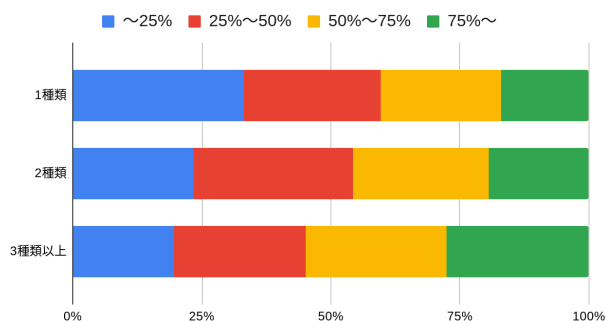


理系

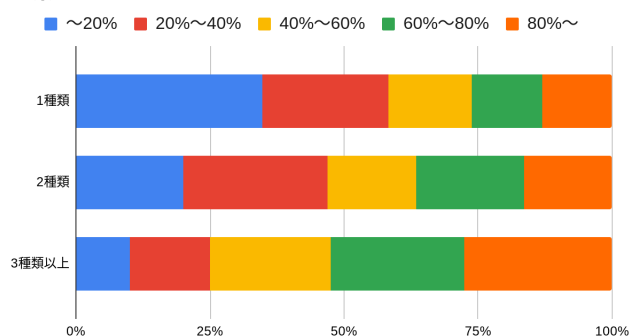


実験1と同様に小学校在籍時に行っていた習い事の数で回答者を分け、順位の分布を表した。同様に習い事の数が少ない者に高順位の者が多いことが分かる。

文系



理系



4. 考察

小学校入学前または小学生のときに公文などの学習系の習い事を行っていたかどうかと現在の成績に関連性は見られなかった。また、小学校の時の習い事の種類が少ない人の成績が高い傾向があった。少ない習い事をすることによってひとつのことに集中する力がついたのではないかと考えた。また、早いうちから塾などに通ってもあまり効果は得られないと考えられる。それは勉強や塾に対する意識の違いからだと思われる。

5. 結論

幼少期にどのような習い事をしているかどうかと現在の成績は関係はなく、習い事の数が少ないほうがひとつのことに集中する力がついて学力が伸びやすくなると考えられる。また現在の得意教科との関係もなかった。

6. 参考文献ならびに参考Webページ

奥村咲・池田琴恵(2019)大学生の非認知能力と関連する幼少期の体験の検討